ディダケー（十二使徒の教え）

著者不明
藤遥　制作

1〜6章　二つの道

0:1 十二使徒を通して異邦人に与えられた主の教え。

1:1 道は二つある。一つはいのちの道、もう一つは死の道である。二つの道の違いは大きい。1:2 いのちの道はこうである。第一に、あなたを造られた神を愛せよ。第二に、自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ。自分にしてほしくないことは、どんなことでも人にしてはならない。1:3 これらのことばの教えはこうである[1]。あなたがたをのろう者を祝福し、敵のために祈れ。あなたがたを迫害する者のために断食せよ。自分を愛してくれる者を愛したからとて、どれほどの手柄になろうか。異邦人でも同じことをしているではないか。しかしあなたがたは、自分を憎む者を愛せよ。そうすれば、敵を持つことはない。1:4 肉とからだの欲を断て。だれかがあなたの右の頬を打つなら、ほかの頬をも向けてやれ。そうすれば、あなたは完全な者となる。だれかがあなたをしいて一マイル行かせようとするなら、その人と共に二マイル行け。だれかがあなたの上着を取るなら、下着をも与えよ。だれかがあなたの物を奪うなら、取りもどそうとするな。あなたにはそうすることもできないのだから。1:5 求める者にはだれにでも与えよ。取りもどそうとするな。父は、ご自分の賜物がすべての人に分け与えられることを望んでおられるからである。戒めに従って与える者はさいわいである。その人にはとがめがない。受ける者はわざわいである。必要があって受けるなら、とがめはない。しかし必要もないのに受け取った者は、なぜ、何のために受け取ったのか、責任を問われる。獄に入れられて、したことを問いただされ、最後の一コドラントを支払うまでは、そこから出ることはできない。1:6 しかし、このことについては、こうも言われている。『だれに与えるべきかがわかるまで、施しをあなたの手の中で汗ばませておけ』。

2:1 教えの第二の戒めはこうである。2:2 殺してはならない。姦淫してはならない。少年を汚してはならない。不品行をしてはならない。盗んではならない。魔術を行ってはならない。まじないの薬を用いてはならない。胎児を堕ろして殺してはならない。生まれた子を殺してはならない。隣り人のものをむさぼってはならない。2:3 偽って誓ってはならない。偽証してはならない。悪口を言ってはならない。恨みをいだいてはならない。2:4 二心であってはならない。二枚舌を使ってはならない。二枚舌は死のわなだからである。2:5 あなたのことばは偽りであってはならない。むなしいものであってもならない。行いの伴ったものでなければならない。2:6 貪欲な者、奪う者、偽善者、悪意ある者、高慢な者であってはならない。隣り人に対して悪いはかりごとをめぐらしてはならない。2:7 どんな人をも憎んではならない。ある人々は戒め、ある人々のためには祈り、ある人々は自分のいのちよりも愛せよ。

3:1 わが子よ、あらゆる悪から逃れよ。悪に似たものすべてからも逃れよ。3:2 怒りっぽい者になるな。怒りは殺人に導くからである。ねたむ者、争い好きな者、激しやすい者にもなるな。これらすべてから殺人が生まれるからである。3:3 わが子よ、情欲をいだく者になるな。情欲は不品行に導くからである。みだらなことを言う者、色目を使う者にもなるな。これらすべてから姦淫が生まれるからである。3:4 わが子よ、鳥占いをする者になるな。それは偶像礼拝に導くからである。まじないをする者、星占いをする者、清めの呪術を行う者にもなるな。そういうものを見たいと思ってもならない。これらすべてから偶像礼拝が生まれるからである。3:5 わが子よ、うそつきになるな。うそは盗みに導くからである。金を愛する者、虚栄を求める者にもなるな。これらすべてから盗みが生まれるからである。3:6 わが子よ、つぶやく者になるな。それは神をけがすことに導くからである。わがままな者、悪いことを考える者にもなるな。これらすべてから神をけがすことが生まれるからである。3:7 柔和であれ。柔和な人たちは地を受けつぐからである。3:8 寛容であれ。あわれみ深く、悪意がなく、穏やかで、善良であれ。聞いたことばに、いつもおののく者であれ。3:9 自分を高くしてはならない。自分の魂におごりを許してはならない。あなたの魂は高ぶる者と結びつい

てはならない。正しい人々やへりくだった人々と交われ。3:10 身に起こる出来事は、良いものとして受け入れよ。神によらずに起こるものは何一つないことを知っているのだから。

4:1 わが子よ、あなたに神のことばを語る人を、夜も昼も覚えよ。その人を主のように敬え。主のことが語られるところに、主はおられるからである。4:2 毎日、聖徒たちに会うことを求めよ。そのことばによって安らぎを得るためである。4:3 分裂を望んではならない。争っている者たちを和解させよ。正しくさばけ。あやまちを戒めるときに、人を分け隔てしてはならない。4:4 事が成るか成らないかと、思い迷ってはならない。4:5 受けるときには手を伸ばし、与えるときには手を引っこめる者になるな。4:6 あなたの手に何かあるなら、それをあなたの罪のあがないとして与えよ。4:7 与えるのをためらってはならない。与えるときにつぶやいてはならない。報いを良く返してくださる方がだれであるかを、あなたは知るようになるからである。4:8 困っている人を退けてはならない。あなたの兄弟とすべてのものを分かち合え。自分のものだと言ってはならない。あなたがたは滅びないものを共にしているのだから、滅びるものならなおさらである。4:9 息子や娘から手を引いてはならない。幼いときから神を恐れることを教えよ。4:10 同じ神に望みをおいているあなたのしもべやはしためが、腹立ちまぎれに命令してはならない。そんなことをすれば、彼らは、あなたと彼らの両方の上におられる神を恐れなくなるかもしれない。神は、人を分け隔てして招くために来られるのではない。御霊が備えられた人々のところに来られるのである。4:11 しもべたちよ、あなたがたは主人を神のかたどりと思い、慎みと恐れをもって主人に従え。4:12 あらゆる偽善を憎め。主に喜ばれないことをすべて憎め。4:13 主の戒めを決して捨ててはならない。受けたものを、何も加えず、何も取り去らずに守れ。4:14 教会で、自分のあやまちを告白せよ。良心のとがめをいだいたまま、祈りに出てはならない。これがいのちの道である。

5:1 死の道はこうである。何よりもまず、それは邪悪で、のろいに満ちている。殺人、姦淫、情欲、不品行、盗み、偶像礼拝、魔術、まじないの薬、略奪、偽証、偽善、二心、欺き、高慢、悪意、わがまま、貪欲、みだらなことば、ねたみ、厚かましさ、高ぶり、自慢。5:2 善い人々を迫害する者、真理を憎む者、偽りを愛する者、義の報いを知らない者。善にも正しいさばきにも結びつかない者。善のためではなく悪のために目を覚ましている者。柔和と忍耐は彼らから遠い。むなしいものを愛し、見返りを追い求める者。貧しい人をあわれまず、虐げられている人のために骨を折らない者。自分を造られた方を知らない者。子供を殺す者。神の造られたものを滅ぼす者。困っている人を退け、苦しんでいる人を虐げる者。金持ちの弁護をし、貧しい人を不法にさばく者。あらゆる罪にまみれた者。子らよ、これらすべてから救い出されるように。

6:1 だれもあなたを、この教えの道から迷わせることのないように気をつけよ。その者は、神によらずにあなたを教えているのだから。6:2 主のくびきをすべて負うことができるなら、あなたは完全な者となる。できないなら、できることを行え。6:3 食べ物については、負えるものを負え。ただし、偶像に供えた物は、かたく避けよ。それは死んだ神々を拝むことだからである。

訳注

1 ここから2:1までは古いラテン語訳などになく、後から加えられたとみる説がある。

7〜10章　洗礼、断食、祈り、聖餐

7:1 洗礼については、次のように授けよ。これらのことをすべて前もって語り聞かせてから、父と子と聖霊との名によって、流れる水で洗礼を授けよ。7:2 流れる水がないなら、ほかの水で授けよ。冷たい水でできないなら、温かい水で授けよ。7:3 どちらもないなら、父と子と聖霊との名によって、頭に三度水を注げ。7:4 洗礼の前には、授ける者も受ける者も断食せよ。ほかにもできる人がいれば、その人たちも断食せよ。受ける者には、一日か二日前から断食するように命じよ。

8:1 偽善者たちと同じ日に断食するな。彼らは月曜日と木曜日に断食するからである。あなたがたは水曜日と金曜日に断食せよ。8:2 また、偽善者たちのように祈るな。主がご自分の福音の中で命じられたとおりに、こう祈れ。『天にいますわれらの父よ、御名があがめられますように。御国がきますように。みこころが天に行われるとおり、地にも行われますように。わたしたちの日ごとの食物を、きょうもお与えください。わたしたちも、わたしたちに負債のある者をゆるしているように、わたしたちの負債をもおゆるしください。わたしたちを試みに会わせないで、悪しき者からお救いください。力と栄光とは、とこしえにあなたのものだからです』（マタイ六・九〜一三）[1]。8:3 一日に三度、このように祈れ。

9:1 聖餐については、次のように感謝をささげよ。9:2 まず杯について。『わたしたちの父よ、あなたのしもべダビデの聖なるぶどうの木のゆえに、あなたに感謝します。あなたはこれを、あなたのしもべイエスによって、わたしたちに知らせてくださいました。栄光がとこしえにあなたにありますように』。9:3 次に、裂かれたパンについて。『わたしたちの父よ、あなたのしもべイエスによって、あなたがわたしたちに知らせてくださった、いのちと知識のゆえに、あなたに感謝します。栄光がとこしえにあなたにありますように。9:4 この裂かれたパンは山々の上に散らされていましたが、集められて一つとなりました。そのように、あなたの教会も地の果てから集められて、あなたの御国に入りますように。栄光と力とは、イエス・キリストによって、とこしえにあなたのものだからです』。9:5 主の名によって洗礼を受けた者のほかは、だれもあなたがたの聖餐から食べたり飲んだりしてはならない。このことについても、主は『聖なるものを犬にやるな』と言われたからである（マタイ七・六）。

10:1 食べて満ち足りたのちに、次のように感謝をささげよ。10:2 『聖なる父よ、あなたがわたしたちの心に宿らせてくださった聖なる御名のゆえに、あなたに感謝します。また、あなたのしもべイエスによってわたしたちに知らせてくださった、知識と信仰と不死のゆえに、あなたに感謝します。栄光がとこしえにあなたにありますように。10:3 全能の主よ、あなたは御名のために万物を造り、人々が楽しむように食べ物と飲み物をお与えになりました。それは、彼らがあなたに感謝するためです。しかしわたしたちには、あなたのしもべによって、霊の食べ物と飲み物と、永遠のいのちとを恵んでくださいました。10:4 何よりも、あなたが力ある方であることを感謝します。栄光がとこしえにあなたにありますように。10:5 主よ、あなたの教会を覚えてください。教会をあらゆる悪から救い出し、あなたの愛のうちに全うしてください。きよめられた教会を四方の風から集めて、あなたが教会のために備えられた御国に入れてください。力と栄光とは、とこしえにあなたのものだからです。10:6 恵みが来ますように。この世が過ぎ去りますように。ダビデの神にホサナ[2]。だれでも聖なる者は来るがよい。そうでない者は悔い改めるがよい。マラナ・タ[3]。アーメン』。10:7 預言者たちには、思うままに感謝をささげることを許せ[4]。

訳注

1 教会で唱える主の祈りと違い、結びに『国』と『アーメン』がない。
2 古い訳や並行する文書には、『ダビデの子に』『ダビデの家に』と読むものがある。
3 アラム語で『われらの主よ、来てください』。『主は来られた』とも読める。

4　古いコプト語訳などでは、このあとに香油について感謝する祈りが続く。

11〜15章　使徒と預言者、主の日、監督と執事

11:1 そこで、だれかが来て、前に述べたこれらのことをすべてあなたがたに教えるなら、その人を受け入れよ。11:2 しかし、教えるその人自身が背を向け、これを覆すためにほかの教えを説くなら、その人に聞くな。義と主の知識を加えるために教えるなら、その人を主のように受け入れよ。11:3 使徒と預言者については、福音の定めに従って、次のようにせよ。11:4 あなたがたのところに来る使徒はみな、主のように受け入れよ。11:5 ただし使徒は、一日を越えてとどまってはならない。必要があれば、もう一日とどまってよい。三日とどまるなら、その者は偽預言者である。11:6 使徒は出て行くとき、次の宿に着くまでのパンのほかは、何も受け取ってはならない。金銭を求めるなら、その者は偽預言者である。11:7 霊によって語る預言者を、だれであれ試してはならない。さばいてもならない。どんな罪もゆるされるが、この罪はゆるされないからである。11:8 しかし、霊によって語る者がみな預言者なのではない。主のふるまいを身につけている者だけが預言者である。だから、ふるまいによって、偽預言者と預言者とが見分けられる。11:9 霊によって食事の席を設けるように命じる預言者はだれも、その食事から食べてはならない。食べるなら、その者は偽預言者である。11:10 真理を教える預言者でも、自分が教えることを行わないなら、その者は偽預言者である。11:11 吟味を経た真実な預言者がいて、教会の地上の奥義のために事を行うとする。その人が、自分の行うことをほかの者にも行うよう教えないなら、その人はあなたがたにさばかれてはならない。その人は神のもとでさばきを受けるからである。昔の預言者たちも、同じようにしたのである。11:12 だれかが霊によって『金銭か、何かほかの物をわたしにくれ』と言うなら、その人に聞いてはならない。しかし、乏しいほかの人々のために与えよと言うなら、だれもその人をさばいてはならない。

12:1 主の名によって来る者は、だれでも受け入れよ。そのあとで吟味すれば、その人のことがわかるだろう。あなたがたには、右と左を見分ける分別があるはずだからである。12:2 来た人が旅の途中の者なら、できるだけ助けよ。ただし、二日か三日を越えてあなたがたのもとにとどまってはならない。それも、必要があるときだけである。12:3 その人が手に職を持っていて、あなたがたのもとに住みつきたいと思うなら、その人は働いて食べよ。12:4 職を持たないなら、キリスト者が怠けてあなたがたの中で暮らさないように、あなたがたの分別に従って手だてを考えよ。12:5 そうしようとしないなら、その人はキリストを売り物にする者である。そのような者に気をつけよ。

13:1 あなたがたのもとに住みつきたいと思う真実な預言者はみな、自分の食べ物を受けるにふさわしい。13:2 真実な教師も同じように、働き人と同じく、自分の食べ物を受けるにふさわしい。13:3 だから、酒ぶねと打ち場の産物と、牛と羊とから、初物をすべて取って、その初物を預言者たちに与えよ。彼らはあなたがたの大祭司だからである。13:4 預言者がいないなら、貧しい人々に与えよ。13:5 パンを作るときは、その初物を取って、戒めに従って与えよ。13:6 同じように、ぶどう酒か油の壺を開けたら、その初物を取って預言者たちに与えよ。13:7 金銭や衣服や、あらゆる持ち物についても、あなたがよいと思うだけの初物を取って、戒めに従って与えよ。

14:1 主の日ごとに集まってパンを裂き、感謝をささげよ。その前にあなたがたのあやまちを告白し、あなたがたのささげ物が清いものとなるようにせよ。14:2 仲間と争いごとのある者はみな、和解するまで、あなたがたの集まりに加わってはならない。あなたがたのささげ物が汚されないためである。14:3 これこそ、主が言われたささげ物だからである。『どこででも、いつでも、わたしに清いささげ物をささげよ。わたしは大いなる王であり、わが名は国々のうちで驚くべきものだからであると、主は言われる』（マラキ一・一一、一四）。

15:1 だから、主にふさわしい監督と執事を、自分たちのために選び立てよ。柔和で、金を愛さず、真実で、吟味を経た人々を選べ。彼らもまた、預言者や教師

と同じ務めを、あなたがたのために果たしているからである。15:2だから、彼らを軽んじるな。彼らは、預言者や教師と共に、あなたがたの中で尊ばれている人々だからである。15:3福音にあるとおり、怒ってではなく、平和のうちに互いを戒めよ。ほかの人に対してあやまちを犯した者がいれば、その人が悔い改めるまで、だれもその人に話しかけてはならない。その人に、あなたがたの言葉を聞かせてもならない。15:4あなたがたの祈りと施しと、すべての行いを、わたしたちの主の福音にあるとおりに行え。

16章　終わりの日

16:1 あなたがたのいのちのために、目を覚ましていよ。あなたがたのともしびは消えてはならない。あなたがたの腰の帯はゆるんではならない。むしろ、用意をしていよ。わたしたちの主が来られる時を、あなたがたは知らないからである。16:2 あなたがたの魂にふさわしいことを求めて、たびたび集まれ。最後の時に完全な者とされないなら、あなたがたの信仰の全期間も、何の益にもならないからである。16:3 終わりの日には、偽預言者と人を堕落させる者とが多くなり、羊は狼に変わり、愛は憎しみに変わるからである。16:4 不法が増すにつれて、人々は互いに憎み、迫害し、引き渡すようになるからである。そのとき、世を惑わす者が神の子のように現れて、しるしと不思議を行う。地は彼の手に渡される。彼は、世の初めから一度もなかった忌まわしいことを行う。16:5 そのとき、人間という被造物は試練の火の中に入る。多くの者がつまずいて滅びる。しかし、自分の信仰のうちに耐え忍んだ者は、呪いそのものによって救われる[1]。16:6 そしてそのとき、真理のしるしが現れる。第一に、天に広がるしるし。次に、ラッパの音のしるし。第三に、死者の復活である。16:7 ただし、すべての死者がよみがえるのではない。『主は来られる。すべての聖徒も主と共に』と言われたとおりである（ゼカリヤ一四・五）。16:8 そのとき、世は、主が天の雲の上に乗って来られるのを見る[2]。

訳注

1 『呪われた方（キリスト）によって』とも『呪いの下から』とも読める。

2 ギリシア語本文はここで終わるが、『使徒憲章』などでは最後のさばきの記述が続く。

ディダケー（十二使徒の教え）

2026年11月23日版
著者　著者不明
制作　藤遥
発行　christian-classics-jp
公開　https://christian-classics-jp.github.io/site/didache/
原稿　https://github.com/christian-classics-jp/site/tree/master/books/didache
全文を、ギリシア語原文（Διδαχὴ τῶν δώδεκα ἀποστόλων）からAIを使って翻訳しました。
訳文はCC BY-SA 4.0で公開しています。引用した聖書の本文は含みません。